

2018年度 学校法人 ISI 学園 事業報告書

学校法人 ISI 学園

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学科

- ①専門学校 東京ビジネス外語カレッジ (TBL, 2004年4月開校)
- ・ 専門課程 グローバルビジネス学科
 - ・ 専門課程 国際コミュニケーション学科
- ②専門学校 長野ビジネス外語カレッジ (NBL, 2005年4月開校)
- ・ 専門課程 グローバルビジネス学科
 - ・ 専門課程 国際コミュニケーション学科
 - ・ 専門課程 日本語学科
- ③各種学校 ISI 外語カレッジ (ILC, 2014年7月開校)
- ・ 進学2年コース (2部制)
 - ・ 進学1年9か月コース (2部制)
 - ・ 進学1年6か月コース (2部制)
 - ・ 進学1年3か月コース (2部制)

(2) 学生定員, 2018年5月度在籍数の状況

	学 科	課 程	総定員	入学定員	年次別	在籍数
T B L	グローバル ビジネス	2年	80	40	1年次	42
					2年次	38
	国際コミュニ ケーション	1年	40	40	1年次	43
					2年	200
					2年次	89
	計	---	320	180	---	315
N B L	グローバル ビジネス	2年	120	60	1年次	49
					2年次	34
	国際コミュニ ケーション	2年	180	90	1年次	62
					2年次	70
	日本語	1.5 年	105	52	1年次	0
		2年	160	80	2年次	66
					1年次	93
				2年次	35	
	計	---	565	282	---	409
I L C	進学コース	2年	120	60	1年次	85
					2年次	174
		1年9 か月	80	40	1年次	29
					2年次	0
		1年6 か月	120	60	1年次	24
2年次	0					

		1年3 か月	40	20	1年次	23
					2年次	0
	短期コース (附帯教育)	1ヶ月か ら6カ 月	40	40	---	38
	計	---	400	220	---	373
法人計	---	---	1285	682	---	1097

(3) 役員・教職員の概要 (2018年5月度時点)

- ① 役員： 常勤理事5名 非常勤理事2名 監事2名
 ② 教職員： 計135名 (本務37名、兼務98名)

		教職員種別	男性	女性	合計
T B L	本 務	教 員	3	2	5
		職 員	1	4	5
		合 計	4	6	10
	兼 務	教 員	21	13	34
		職 員	0	0	0
		合 計	21	13	34
N B L	本 務	教 員	5	6	11
		職 員	3	2	5
		合 計	8	8	16
	兼 務	教 員	11	19	30
		職 員	0	2	2
		合 計	11	21	32
I L C	本 務	教 員	4	2	6
		職 員	0	5	5
		合 計	4	7	11
	兼 務	教 員	24	7	31
		職 員	0	1	1
		合 計	24	8	32

2. 2018年度事業の概要

■法人本部

① NBL 学生寮の環境整備：

NBL の学生増および既存学生寮の老朽化に伴い、計画通り環境整備を実施した。具体的にはドリームパルの全面リニューアル工事が9月完了、白樺寮の建替え工事計画も予定通り2019年3月末竣工。4月より学生が快適に寮生活を送っている。

② NBL 増員準備のための校舎改装工事：

NBL 日本語学科定員増のための校舎改修工事を実施。栄光寮4階を教室に変更した。工事は、夏休み期間中に実施し、4教室（各定員20名）と男女トイレを設置。

③ 本部機能体制の確立：

2018年4月より、ISI学園を含むISIグループ全体の取り組みとして、各校の学校運営全般及び教育の質向上及び学生募集機能の集約のための本部機能体制を整備した。具体的には、業務標準化、留学生管理体制の強化、危機管理体制の整備、内部統制、教育改善、学生満足度調査の実施（改善）、自己評価・外部評価の実施（改善）、キャリアセンター運営、学生募集機能の集約等を本部機能・役割として担い、学校経営の一層の強化、入口・出口強化、ISI学園グループの価値向上を目指した取り組みを開始し、1年目を終えた。

■専門学校 東京ビジネス外語カレッジ

●募集・広報活動：2019年4月入学者191名（定員達成、+11名）

出願総数352名

●卒業成果：CPA大学・大学院等合格率100%、就職内定率100%（4月初め時点）

●対当局関係組織整備：豊島区役所（テロ対策演習）、豊島警察署（情報連絡会委員）、豊島消防署（避難訓練、AED講習）など関係強化

【TBL 2018年度主な事業の目的・計画】

① 学生と質と収益性の一層の維持向上・TBLの価値評価向上

- ・ 引き続き学生の質を高め、退学率の低下、就職獲得性の高い学生の確保を図る
- ・ 授業料未納入者の抑制、安易な減免政策を回避し優秀な学生確保の奨学金制度など限定的に運営し収益性の向上を図る

② 顧客基盤の拡充

- ・ 1を踏まえた上で、2019年度以降の定員増加を視野に入れた顧客基盤の拡充のためのメリハリの利いたマーケティング戦略を志向する
- ・ 特に日本人募集拡大のための教育内容の整備とマーケット部門との戦略連携を強化する

③ 教育の質の向上と魅力あるプログラム作り（根源的なTBLの教育価値の向上）

- ・ 2+2、ホスピタリティ・インターンシップ留学、交換留学制度、JASSO協定派遣奨学金シンガポール留学など競合校にない特色の強化
- ・ 英語教育プログラムの再編、ホスピタリティ教育の導入、日中医療通訳プログラムの強化などカリキュラム内容の一層の発展
- ・ TOEIC、JLPTなどでのわかりやすい教育成果の達成と可視化

④ 教務の整備を軸とした体制の強化

- ・ TBL人件費において経常収益率を確保しつつ、教務体制の整備充実を行う
- ・ 本部関連部門との連携を強化するとともに、グループ全体での成果の有効達成に注力する

上記計画の総括（TBL）

① 学生と質と収益性の一層の維持向上・TBLの価値評価向上

- ・ 学生の質向上に関しては、厳格な入試運営を行うことにより根本的に学生活動を継

続できる学生を確保。

- ・ 授業料未納者はゼロ。入試時の減免施策の見直しにより成績優秀者への奨学金支給を行う。奨学金表彰も入学式に実施することにより、新入生に向けての学習意欲向上策としても活用している。
- ② 顧客基盤の拡充
- ・ 2020 年度以降の増員に向け、顧客のニーズに合った新コースの検討を実施。
 - ・ 日本人学生の入学は大幅に伸びたが、一層の拡大には顧客分析が不可欠。2019 年度日本人新入生の多くが留学を希望する学力、意識ともに高い学生のため、そのニーズに応えられる授業内容の充実に取り組んで行く。
- ③ 教育の質の向上と魅力あるプログラム作り（根源的な T B L の教育価値の向上）
- ・ 2019 年度より英語キャリアコースが英語ホスピタリティコースに変更するためにホスピタリティ系授業の導入に向けた検証を実施。
 - ・ 大学連携ではグローバルビジネスコースの 2 + 2 パートナーが 6 校に拡大。カナダのセンティニアルカレッジでのホスピタリティ系インターンシップが出来るプログラムを開発。交換留学ではハンガリーのブダペストメトロポリタン大学への単位認定型 Semester 留学 2 名を派遣。グローバルビジネス学科の MDIS 留学には 1 名が、JASSO 海外留学支援制度（協定派遣）による奨学金給付のもとに留学し、専門士と上級ディプロマ取得。
 - ・ 日中医療通訳コースのカリキュラムは医師事務作業補助資格、美容通訳、薬学を新規導入。医師事務作業補助資格取得による医療機関への採用が飛躍的に広がった。
 - ・ TOEIC-IP 試験を校内で実施できるようにし就職試験の際に英語力を証明できるように整えたことをきっかけに、受験者も大幅に上昇した。JLPT も集団申込みにより、日本語能力の総合的な把握が可能となり試験対策指導もピンポイントで出来るようになった。
 - ・ 専門教育では企業向けプレゼンテーション型プロジェクト演習を全学的に実施。
- ④ 教務の整備を軸とした体制の強化
- ・ 年度内に日本語教員 2 名（1 名産休補完）、英語教員 2 名（1 名はネイティブ常勤契約）を追加採用し、新年度に向けて体制整備をはかり教育の充実を図った。

2018 年度は自己点検自己評価、学校関係者評価等も踏まえ、教育の質を中心に学校価値の向上に努め、本部との連携の下、募集、進学、就職とも頭書の成果を達成することができた。

■専門学校 長野ビジネス外語カレッジ

●募集・広報活動：

【GB・国コミ】2019 年 4 月入学者 118 名（日本人入学者 18 名）、出願総数 186 名

【日本語学科】2019 年 4 月入学者 61 名、短期生 4 名

●卒業成果：【日本語学科】専門学校・大学・大学院等合格率 99%、

【GB・国コミ】就職内定率 97%

【NBL 2018 年度主な事業の目的・計画】

- ① 専門課程新コースの充実「日越通訳」「ホスピタリティ」
 - ・ 講師の確保、新カリキュラムの確立、教育環境整備
- ② 教育の質の向上・ICT 教育の充実
 - ・ 指導技量の研鑽、ICT 教育の教材研究と授業実践。学生入試選抜の改善。
- ③ キャリアサポートの充実
 - ・ 進路指導、インターンシップの拡大、企業連携、「産・学・官」連携。特に留学生の有効活用について企業サイドに提案型アプローチをとる。
- ④ 学生寮の改修、新築、学生住居確保、アルバイト先確保
 - ・ 栄光寮、ドリームパル、白樺寮、民間アパート、アルバイト生の適正配置
- ⑤ 校内組織力の強化
 - ・ 本部組織との連携と統制・校内新組織体制の確立・人材の確保と強化。
 - ・ 「人に与える」コミュニケーション力を身につける。
- ⑥ 学校評価の実施と活用
 - ・ 評価の考察と改善・学校関係者評価の位置づけ。

上記計画の総括 (NBL)

- ① 国際コミュニケーション学科の3コースは入学者へのコース選定の基軸となり、募集展開からも、また、キャリア・企業連携の推進にも重要な役割を荷ってきている。新たな講師の投入と教育環境の整備でさらなるカリキュラムの推進も図れた。
- ② 基本的な学び方、生活習慣の定着性に目を配り、学校における実践教育に重点を置き、学生満足度があがるよう常に改善を考えてきた。
- ③ 企業連携が強まり、校内就職セミナー、面接会が増加し、インターンシップ実習制度も定着した。キャリアタス UC の活用によりキャリア面談 100%を達成した。また、初の就労ビザセミナー、社会保険セミナーを開催した。就職率 97%に達し、内定企業も著しく増加した。
- ④ 新寮の整備が終わり、本館と別館 2 寮体制となっている。防災・防火的にも耐震構造的にも優れた物件は学生確保にも寄与するものである。
- ⑤ 本部統制のセントラル方式と学校現場の融合を図る型の 1 期目を終えた。細部の組織コミュニケーションがとれるようにより MTG を推進していく。
- ⑥ 2018 年秋と 2019 年新年早々に「学校関係者評価委員会」を開いて学校の現場を理解し合いつつ、改善策を提示できるような環境造りを進めてきた。

■ISI 外語カレッジ

【ILC 2018 年度主な事業の目的・計画】

- ① 教育の質向上（使用教材の刷新、新教材に伴うカリキュラムの改善、図書の補充）
- ② 進路指導の充実（進学支援・就職支援の充実、キャリアサポート体制の確立）
- ③ 教員の教育力向上にむけた研修会の仕組み構築（研修会の実施方法の見直し、研修会実施アンケート実施）

- ④ 学生満足度向上に向けた施策（日本人との国際交流会企画実施、異文化理解を深められるイベント企画運営）
- ⑤ 自己点検自己評価の実施と公開
- ⑥ スクール運営スタッフの育成（進路面談、進路指導、キャリアサポートができる研修を実施）

上記計画の総括（ILC）

進学：100%（進学希望者 103 人）

大学院 8%、大学 20%、専門学校 65%、その他 7%

就職：97%（就職希望者 39 人）

IT、ホテル、観光、翻訳、飲食、アパレルなど

- ① 教育の質向上（使用教材の刷新、新教材に伴うカリキュラムの改善、図書の補充
 - ・ 使用教材刷新のため、トライアルで授業に導入している。カリキュラムとテストを同時に改変するため、教育推進部と共同で開発を進めている。
 - ・ 全教室に電子黒板及び専用 PC を設置した。電子教材の使用環境を改善したことで、授業のアクティブ化が進み、学生主体による PPT 作成及び発表、会話クラスや就職クラスなどの授業の質が大きく改善された。
 - ・ 学生用図書を 70 冊ほど購入、多分野の図書を揃えて日本語能力のみならず教育全般の質向上の期待をしている。
- ② 進路指導の充実（進学支援・就職支援の充実、キャリアサポート体制の確立）
 - ・ 進学支援として、分野別体験授業を 19 分野で実施、進学率 100%（進学希望者 109 名）という結果が出た。専門学校・大学の入試傾向データをもとに、無駄をなくして一人ひとりに合う受験をさせている。結果、進学率 100%（進学希望者 103 名）の実績が出た。
 - ・ 就職支援としては、通年のカリキュラムを改定。また、就職説明会（電通、ユニバーサルミュージック）企業訪問を実施。結果、就職率 97%（就職希望者 39 名）という実績を出すことができた。
 - ・ 法人本部キャリアセンターのサポート体制も整い、個別学生指導・支援がスタートできた。
- ③ 教員の教育力向上にむけた研修会の仕組み構築（研修会の実施方法の見直し、研修会実施アンケート実施）
 - ・ 文法主体の模擬授業及び研修会から脱却し、ICT 授業の研究や読解のビジュアル化など、これまでにはない時代に合った新テーマを設定し、関連校を含め 55 名もの参加者が集う一大イベントに成長した。
 - ・ 年 2 回・各 2 週間の授業見学週間を新たに設定したことにより、研修会以外の授業研究の機会を得ることができた。専任・非常勤の垣根を越え、また教育推進部との連携を図ることにより、法人全体の取り組みへと成長させる機会を得ることができた。
- ④ 学生満足度向上に向けた施策（日本人との国際交流会企画実施、異文化理解を深められるイベント企画運営）

- ・ 入学前に事前プレテスト実施、オリエンテーション資料改定など、授業開始までの手続きを簡素化した。
 - ・ 国際交流・異文化理解を深めるため、せかいのことばパーティ（年 6 回）英語や中国語のスプリングスクールに参加（年 10 回）言葉を通して異文化を知る、言語を学ぶ楽しさを知ること、学習意欲を高められた。
 - ・ 日本文化体験として、「靖国神社奉納大相撲」「和紙作り体験」「納涼盆踊り大会」「長唄三味線」、「日本舞踊」など実施した。
- ⑤ 自己点検自己評価の実施と公開
- ・ 昨年同様に実施、公表済み。
- ⑥ スクール運営スタッフの育成（進路面談、進路指導、キャリアサポートができる研修を実施）
- ・ 年間通じて事務局員向けの進路面談進路指導の研究とトレーニングを実施（年 4 回）でカウンセリングを受けられない学生には、母語でカウンセリングを受けられるようになった。

以 上